

■■■ 元気なうちに整える ■■■

ゆるい しゅうかつしんぶん 終活新聞

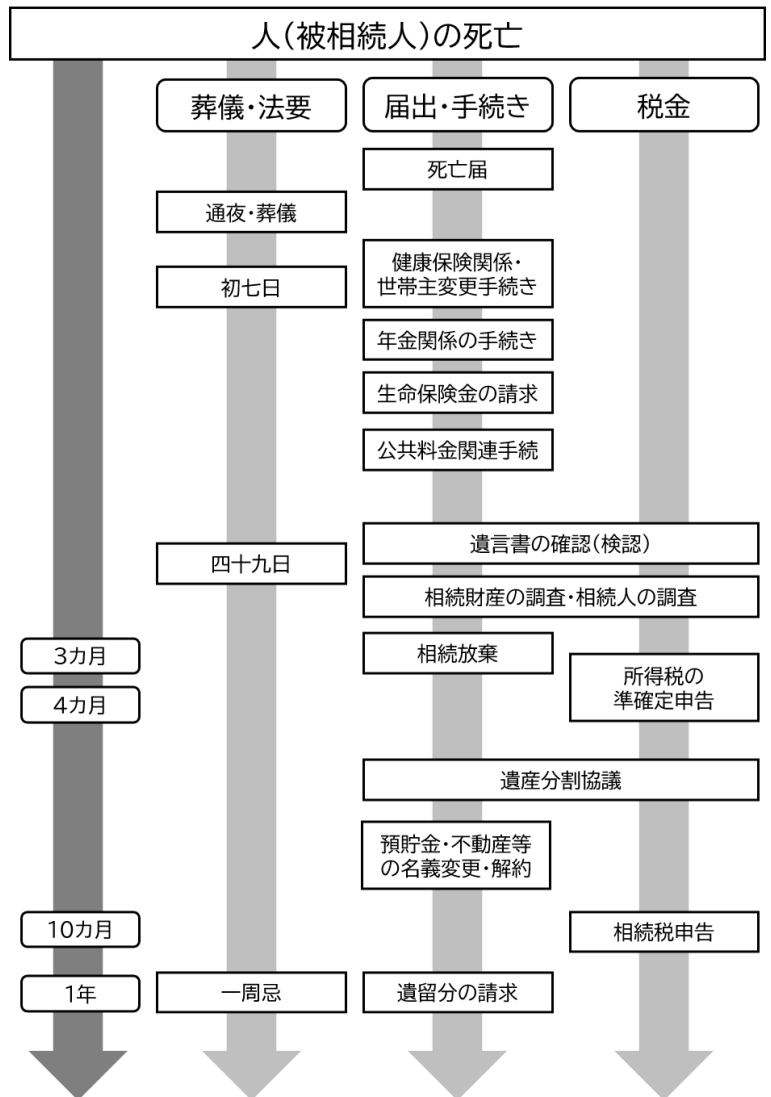
2023年(令和5年)3月

第40号

終活は人生が終わることへの準備だけでなく、人生をよりよく生きること。選択肢を知り、主体的に生きること。わかりやすい終活情報発信メディア。

亡くなったあとの遺族は忙しい ゆっくりお別れする余裕はないかもしれない

終活はなぜするか？という、自分自身のため、のこされる家族のためになります。終活は無理にしないで自分の気が済むように、してもしなくてもよいものです。昔は大家族が多く、自分のことを知っていた人、見守ってくれた人がいて、亡くなった後は想いや情報を共有できてきたことも多く、相続などの死後の手続きもどうにかになっていたかもしれません。しかし、今は子どもが別世帯の核家族や高齢化で配偶者もいなくなったおひとり様のご家庭も多くなりました。自分の死後を任せようと思っても、のこされるご家族や相続人は、仕事や家庭を持って忙しく、何かと時間に追われています。今の若い世代は金銭的な余裕もありません。元気なうちに自分の終い(しまい)は自分でしておく、いわゆる終活が大事になっています。生きていくうちに死後のことを考えて整えておくことは、争いのない確実な相続対策や後悔しないお葬式をあげることに繋がります。のこされるご家族へのやさしさに繋がるのではないのでしょうか。



□ 持っている不動産とその名義を確認してみましょう

今号は遺族の立場で考える「ゆるい終活」をまとめてみました。終活は多岐にわたり、何をどうすれば良いのかわからない人がとても多く、またセミナーや講座もそれぞれの道のプロがされている場合が多いですが、わたしの考える終活は、自分が気づいた不安を自分が元気なうちに整えていくこと。私もまだまだな部分ばかりですが、今は終活の様々な知識を得ながら、自分の気になること、ここ数年は写真整理をぼちぼちがんばっています。ちなみにアナログとデジタル写真が混在している世代なのでとても大変ですが、過程も含めて楽しいなあと思います。無理せず自分のペースでやりたいように♪それが今が楽しくなる終活です。



「終活ノオト」
公式LINE